

論文審査の要旨

報告番号	甲・㉔第 3118 号	氏名	秋山 康介
論文審査担当者	主査 水野 克己 教授 副査 中牧 剛 教授 副査 泉崎 雅彦 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>近年, 治療の進歩により小児がんの生存率は向上した一方で, 長期的な認知機能への影響が懸念されるようになった. これまで, 国内では, 小児がん患児の認知機能を検討した研究は少ない. そこで, 小児がん患児の認知機能の実態について検討を行った.</p> <p>対象: 昭和大学藤が丘病院の外来を受診した 5 歳から 16 歳の小児がん経験者</p> <p>方法: 児童向けウェクスラー式知能検査 (WISC-IV) を用いて, 基準年齢群と小児がん経験者の偏差 IQ を比較検討し, 臨床背景や治療との関連を調べた.</p> <p>結果: 77 人に説明を行い, 53 人 (男性 36 人, 女性 17 名, 平均 9.5 歳) から同意が得られた. 背景疾患の内訳は, 急性リンパ性白血病 37 人, 急性骨髄性白血病 6 人, その他 10 人であった. 頭部への放射線照射経験者は 4 人だった. 寛解後から検査日まで 9.7 年であった.</p> <p>メソトレキセート (MTX) の投与量とワーキングメモリが容量依存性に負の相関を示した. 一方, 放射線治療歴, 髄注歴などとの関連は認めなかった.</p> <p>大量 MTX 療法を受けた児においては, 認知機能の低下によって生活の質を下げていることが予想された. 小児がん患者に対してはこれまで生存を重要視していたが, 今後は将来にわたって QOL を改善すべく, 認知機能の低下を抑えるような介入が必要と思われた.</p> <p>本論文は新知見を得ており, 学術上の価値があり, 学位論文に値すると判定した.</p>			
<p>論文題名: Neurocognitive evaluation of Japanese childhood cancer survivors</p> <p>(小児がん経験者の認知機能に関する検討)</p> <p>掲載雑誌名: THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL of MEDICAL SCIENCES</p> <p>2020 年 掲載・掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)